

① 問題行動を起こすと予想した根拠

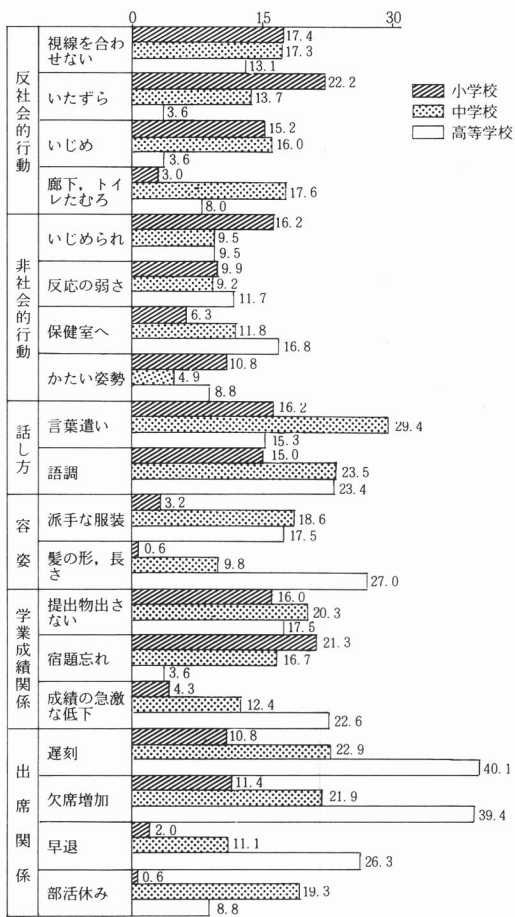


図5 日常観察（複数回答）

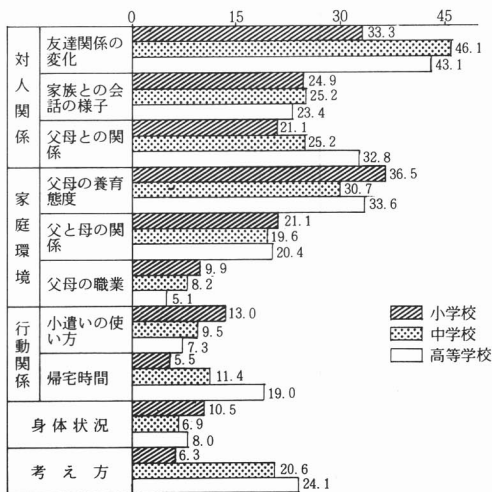


図6 情報（家庭や他の先生方から）（複数回答）

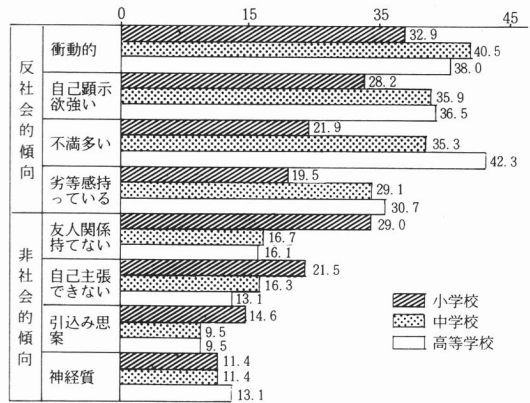


図7 性格（複数回答）

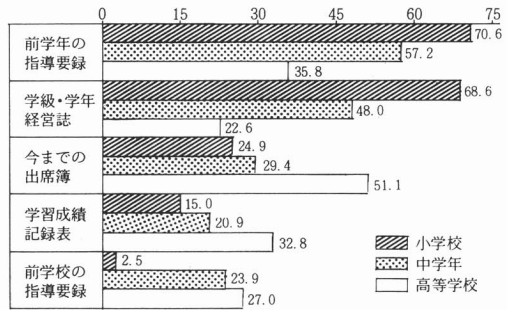


図8 既存の資料（複数回答）

問題行動を予想するためには、図5～8から、子供のしぐさ、表情などの細かい変化に気づくことが第一である。それには、身体面、行動面、情緒面、考え方・生き方などに常に目を向けていく必要がある。更に、児童生徒の過去の記録を参考にして、現在の様子などを比べることが大切である。

② 指導援助の計画

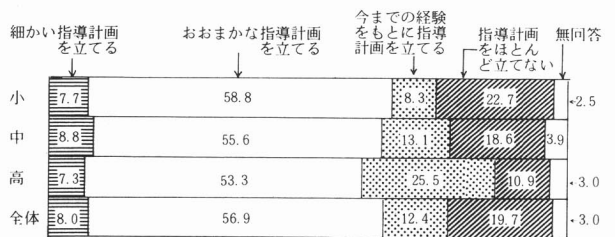


図9 指導援助の計画

適切な指導援助をするためには図9から、必要な資料を収集し、それを基にした診断、指導仮説などを立てることが大切である。